

# ハイボールの原理

## ～ハイボールの語源～

明治大学 向殿政男

ハイボールの原理とは、安全における最も基本的な原理の一つであり、安全な状態を伝える信号(例えば、鉄道や道路の信号でいえば青信号)には、エネルギーの高い状態を対応さなければならない、という原理です。ちなみに、ハイボールとは、アルコール飲料の名前であり、古い人はよく知っているかもしれませんが、ウイスキーの炭酸わりのことです。安全の原理とお酒の名前がなぜ関係があるのかを紹介しましょう。

昔、イギリスでは、鉄道の信号にボール信号というものが使われていました。安全であるということを表すために、駅員がポールに沿って紐でボールを高く上げて運転手に知らせていました。ボールが高く上がっている(ハイボールである)ことを知って、運転手は安全が確認された、すなわち青信号であるとしてホームへ列車を進ませます。ボールが下にあるポールに上がっていない(ローボールの)時は、赤信号であり危険であるとして、ホームに入ってくることを控えています。青信号に相当するハイボールの状態はエネルギーの高い状態であり、紐が切れたり駅員が気を失ってしまったりしたら、ボールは地に落ちて青信号は伝えられないことになります。すなわち、信号装置が故障をすると安全が伝えられなくなり、列車はホームに入ってこられないので不便ではあるが、事故につながることはない、すなわち、安全側故障です。もし、赤信号にハイボールを対応させていたら、故障するとボールは地に落ちてきて危険を表す赤信号は運転手に伝えられません。列車は駅へ入ってきてしまうことになり、大惨事に繋がる可能性があります。すなわち、信号装置が故障をすると危険側故障となり、事故の原因となり得ます。これは、安全であることを知らせる信号には、エネルギーの高い状態を対応させていれば救えた事故であり、これがハイボールの原理の意味するところです。

この安全におけるハイボールの原理が、なぜ、お酒のハイボールに関係するかというと、次のような理由からです。昔、英国の駅では、紳士が駅の待合室でウイスキーをチビリチビリ飲みながら列車を待っていました。ボールが上がってハイボールになると列車が来るのが分かり、ホームに急がなければなりません。残ったウイスキーをそのまま一気に飲むのは体に良くないので、そばにあった炭酸でわって、グーと飲んでホームに急いだのです。こんなことから、ウイスキーの炭酸わりをハイボールと呼ぶようになった、という話です。

最近の若者はハイボールという酒を知らないようです。しかし、チュウハイならばよく知っているとのこと。チュウハイの語源を知っているかと聞くとほとんどの若者が知りません。これは、焼酎のハイボール、すなわち焼酎の炭酸わりのことです。チュウハイにも安全が関連しているのですが、今になっては誰も知る人はいません。もしかしたら、

ハイサワーという言葉も、我輩（わがハイ）のサワーから来ているという説もありますが、ハイボールが関係しているかもしれません。

安全学入門

～安全の確立から安心へ～

研成社、2009

より引用